

さくら市

T O C H I G I





栃木県さくら市は人口約4万4千人。栃木県のほぼ中央で県庁所在地の宇都宮市に隣接しています。東京からは直線で120km、東京駅まで新幹線利用で約70分、都心へは高速道路利用で120分のアクセスが可能です。また喜連川温泉をはじめ、丘陵や清流等の豊かな自然、城下町や宿場町としての歴史、ゴルフ場等の豊富な観光資源を有し、首都圏からの身近な観光地として位置しています。

さくら市
T O C H I G I

選ばれる街 さくら市



20th Anniversary

2025年さくら市は、市制施行20周年を迎えました。

さくら市 PR大使

- 左から
- せきぐちゆきさん《シンガーソングライター》
- 島田 恭子さん《陶芸家》
- Lovin & Sさん《タレント》
- 河口 恭吾さん《シンガーソングライター》
- コンタ君
- 中里 弥菜さん《アナウンサー》
- 窪井 裕美さん《日本画家》
- 落合 崇史さん《音楽監督》
- 須賀 由美子さん《アナウンサー》



2025（令和7）年3月29日、氏家公民館ホールにて20周年記念式典&記念フェスティバルが開催されました。記念の式典は、喜連川公方太鼓の演奏や記念ムービー上映、市内小中学生による「20年後のさくら市」をテーマにした作文・プレゼンコンテストの表彰などが行われました。記念フェスティバルでは、市民団体のダンスパフォーマンス、「二十歳のつどい」代表のスピーチ、新たなPR大使の任命とトークを実施。記念コンサートとして、せきぐちゆきさん、落合崇史さん、河口恭吾さんによる演奏が行われ、アンコールでは来場者と共に「さくら市の歌」を合唱しました。



別冊広報さくら 市制20周年特別号



20周年ロゴ



2003 ▶ 2014

- 2003 平成15年
 - 氏家町・喜連川町合併協議会設立（8月）
 - 第6回氏家町・喜連川町合併協議会で新市名が「さくら市」と決定（12月）
- 2004 平成16年
 - 合併協定調印式（7月）
- 2005 平成17年
 - 氏家町と喜連川町が合併し、さくら市が誕生（3月）
 - 埼玉県騎西町（現加須市）と姉妹都市締結（10月）
- 2006 平成18年
 - 茨城県古河市と姉妹都市締結（1月）
 - 市民憲章、市の木・花（さくら）、市の鳥（せきれい）が決定（7月）
 - 非核平和都市宣言（12月）
- 2007 平成19年
 - 農産物直売所「菜っ葉館」がオープン（4月）
 - 河口恭吾氏の作詞作曲による「さくら市の歌～願いこめた花～」完成（5月）
- 2008 平成20年
 - 上松山児童センターがオープン（4月）
 - 農産物加工センターアグリ館「あねさん工房」が完成（6月）
- 2009 平成21年
 - さくら東通り開通（3月）
 - 国道4号氏家矢板バイパス開通（7月）
- 2010 平成22年
 - 喜連川地区の5つの小学校を統合した新「喜連川小学校」開校（4月）
 - 喜連川児童センターがオープン（4月）
- 2011 平成23年
 - 東日本大震災発生（3月）
 - 氏家駅新跨線橋完成（4月）
 - 第24回全国スポーツ・レクリエーション祭（さくら市はゲートボール競技）（11月）
- 2012 平成24年
 - 卯の里ふれあいアンダー開通（3月）
 - さくらロード開通（4月）
 - 氏家児童センターがオープン（10月）
 - 道の駅きつれがわに足湯オープン（12月）
- 2013 平成25年
 - 埼玉県加須市と姉妹都市締結（1月）
 - 氏家駅東口広場屋根整備完了（愛称を「さくらスクエア」と決定）（1月）
- 2014 平成26年
 - プロサッカークラブ栃木SCと地域支援パートナー契約締結（4月）
 - ねんりんピック栃木2014開催（さくら市ではソフトバレーボール交流大会）（10月）
 - 喜連川温泉の市営温泉施設入場者数1500万人到達



2004年7月 合併協定調印式



2007年4月 「菜っ葉館」がオープン



2007年5月 「さくら市の歌～願いこめた花～」完成



2008年4月 上松山児童センターがオープン



2009年7月 国道4号氏家矢板バイパス開通



2010年4月 新「喜連川小学校」開校



2011年3月 東日本大震災発生



2011年11月 全国スポーツ・レクリエーション祭



2012年4月 さくらロード開通



2014年10月 ねんりんピック栃木2014開催

2015 ▶ 2021

2015

平成27年

- さくら市ミュージアム 一荒井寛方記念館—リニューアルオープン (3月)
- 合併10周年記念式典 (3月)
- 総合公園内に多目的運動場「さくらスタジアム」オープン (9月)
- 人口が4万5千人に到達 (12月)

2016

平成28年

- 「氏家うどん」が全国で初めて商工会の出願による地域団体商標に登録 (1月)
- 児童医療費助成制度の現物給付対象を18歳まで拡大 (4月)
- 民間調査会社による「住みよさランキング」で県内1位を獲得 (全国85位、関東14位) (6月)
- 栃木県と合同で総合防災訓練を実施 (8月)

2017

平成29年

- 民間調査会社による日本一可愛い！市の名前ランキングで全国1位 (6月)
- 道の駅きつれがわりリニューアルオープン (4月)
- SAKURA グリーンフィールドオープン (8月)

2018

平成30年

- 道の駅きつれがわ年間来場者数100万人達成 (4月)
- 「ちょうどいい！さくら市」市ロゴ・キャッチコピー決定 (5月)
- 駅前展示館・情報館「さくらテラス」オープン (5月)



2019

令和元年

- 道の駅きつれがわ・さくらテラスにプロジェクションマッピング設置 (3月)
- 台風19号の強風・豪雨災害 (10月)
- 県指定文化財 瀧澤家住宅リニューアルオープン (10月)
- 東京2020オリンピックにおけるハンガリーホストタウン登録 (11月)

2020

令和2年

- 新型コロナウイルス感染症対策本部を設置 (1月)
- 市民活動支援センター「さくらいふ」オープン (4月)
- フットゴルフタウン推進委員会を結成 (7月)
- ランチョパロスベルデス市と国際友好都市締結 (8月)

2021

令和3年

- まちなかおもてなし空間テラス・楽~座オープン (1月)
- 総合公園にバスケットボールコート設置 (3月)
- 東京2020オリンピック聖火リレーが早乙女桜並木~喜連川図書館の区間を走行 (3月)
- コロナワクチン65歳以上の市民に接種開始 (4月)
- 東京2020オリンピック出場のハンガリートリアスロンチームが市内で事前合宿 (7月)
- 主要地方道那須烏山矢板線鹿子畑バイパス開通 (7月)



2015年3月
さくら市ミュージアム
リニューアルオープン



2015年9月
さくらスタジアムオープン



2015年3月
合併10周年記念式典



2016年1月
「氏家うどん」が商工会出願で
地域団体商標に登録



2017年4月
道の駅きつれがわ
リニューアルオープン



2017年8月
SAKURA グリーンフィールド
オープン



2018年5月
「さくらテラス」オープン



2020年7月
フットゴルフタウン
推進委員会を結成



2021年3月
聖火リレーが走行



2021年7月
主要地方道那須烏山矢板線
鹿子畑バイパス開通

2022 ▶ 2025

2022

令和4年

- 早乙女の桜並木再整備開始 (1月)
- 総合公園にさくら・スポーツ・ウォール (壁打ち施設) がオープン (4月)
- 道の駅きつれがわのキャンプ場がオープン (9月)
- いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会開催 (さくら市ではサッカー・インディアカ・スポーツウエルネス吹矢) (10月)

2023

令和5年

- 勝山公園桜見本園完成 (3月)
- 新型コロナウイルスが5類になる (5月)
- 新型コロナウイルス感染対策で休止していた氏家商工まつり (7月)、サマーフェスティバル&花火大会 (8月)、納涼彩 (9月)、きつねの嫁入り (11月) 再開
- 国際友好都市ランチョパロスベルデス市との交流事業実施 (7月・9月)
- 氏家・喜連川合同の市民体育祭開催 (11月)

2024

令和6年

- 上阿久津台地土地区画整理事業が換地処分新町名は「きぬの里」(7月)
- 市制20周年記念ロゴ決定 (7月)
- プロサッカークラブ栃木SCとの包括連携協定締結 (12月)

2025

令和7年

- AIデマンド交通運行開始 (2月)
- 浦須坂駅郵便局開局 (3月)
- 市制20周年記念式典 (3月)
- 栃木SC練習グラウンド着工 (4月)
- さくら市学校給食センターオープン (9月)

栃木 SC 練習グラウンド



栃木SCが旧喜連川運動場に整備している天然芝の専用練習場です。グラウンド整備のほか、地域とのつながりを深めるための活動や賑わい創出のための活動を「GROWWITH PROJECT」として進行中です。企業版ふるさと納税等の仕組みも活用されています。

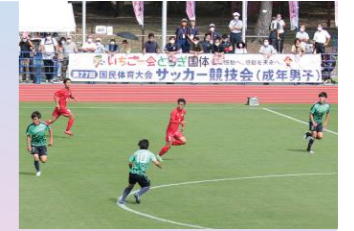
さくら市学校給食センター



市内の小中学校全8校を対象に、最新の衛生管理(ドライシステム)や保温性の高い食缶を用いた配送方式、アレルギー専用調理室、見学通路・研修室、災害時の炊き出し対応、太陽光発電など、省エネ・食育・防災にも配慮された施設です。



2022年4月
総合公園に
さくら・スポーツ・ウォールがオープン



2022年10月
いちご一会とちぎ国体



2023年3月
勝山公園桜見本園完成



2023年8月
サマーフェスティバル
&花火大会再開



2024年12月
栃木SCとの
包括連携協定締結

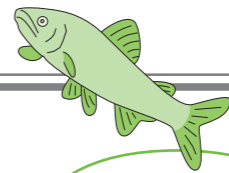


2025年2月
AIデマンド交通運行開始

さくら市の推し

「選ばれる街 さくら市」を掲げ、教育、福祉、産業・観光振興を総合的に推進しています。「スマートな小都市宣言」による行政手続きや防災のデジタル化、ドローン技術の活用、プロサッカーチームとの連携によるスポーツ振興、健康・交流促進、移住定住支援や子育て施策の拡充も進行中です。医療・福祉の充実と地域資源を生かしたまちづくりで、持続可能で魅力ある都市を目指しています。

スポーツ施設の充実
→
12ページ



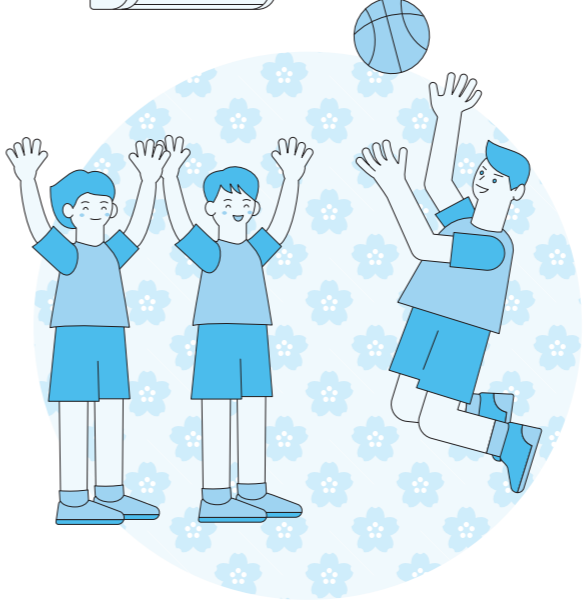
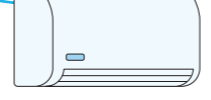
鮎の生産量
東日本1位

幸福度ランキング
4年連続県内で1位



15歳未満の割合が
6年連続県内で1位

市内全ての
小中学校
教室・
体育館に
エアコン設置



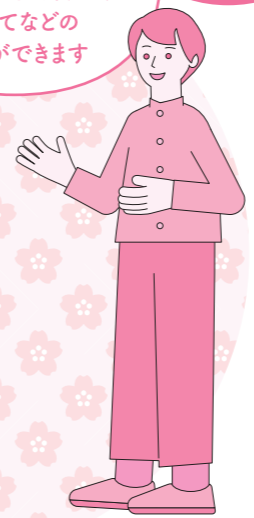
学力県内
トップクラスの
達成



英検
漢検
受検料助成



まちなか
保健室
学校の保健室のように
立ち寄れて、
気軽に健康や介護、
子育てなどの
相談ができます



デマンド交通

AIシステム導入で
スムーズな配車



妊産婦

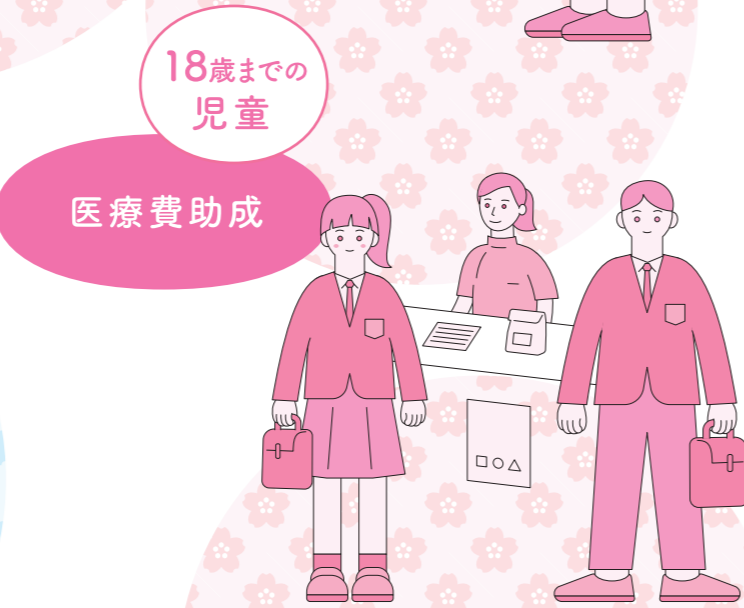
産後ケア

医療費助成

7回無料

保育園
放課後
児童クラブ

待機児童ゼロ



18歳までの
児童

医療費助成

ヤング健診
(若年健診)

19歳～39歳の
若い世代の方も
健康診断が
受けられます



健康管理
アプリ
さくほ
saku歩
アプリを登録
歩いて
ポイントを貯めると
賞品が当たります



スポーツ・教育

SAKURA
グリーンフィールド

人工芝のグラウンド。サッカーコートとフットサルコートが1面ずつあります。



さくら・スポーツ・ウォール

総合公園

ナイター設備付きの野球場やテニスコート、ゲートボール場をはじめ、壁打ち施設やボルダリングウォール、スケートボードエリアもあり幅広いスポーツに対応。約300本の桜が咲き誇り花見の名所としても親しまれています。

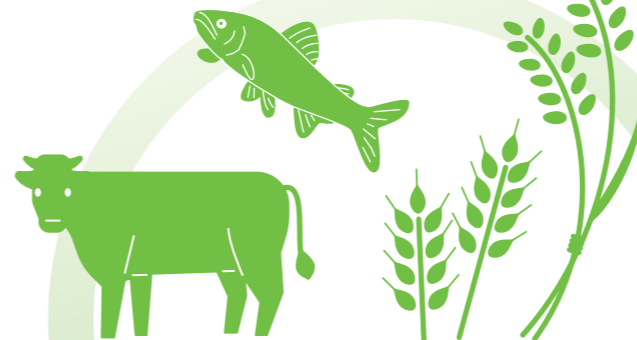


氏家、喜連川2か所の図書館

課外スクール
「さくら未来塾」

週末や長期休業中に開校する課外教室です。地域の方々に講師にした「学力アップコース」と、里山・自然体験や、ものづくりなど様々な体験ができる「体験コース」を設け、さくら市の良さを生かした多くの学びの機会を創設、地域全体で子どもたちを支える仕組みです。

Work

農業・観光業・製造業が
バランスよく発展

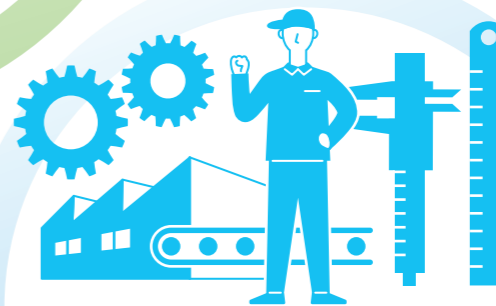
農業・水産業

稲・麦類・豆類等が主体であり、畜産業等も含め、東京圏への生鮮食料の供給基地としての役割を果たしています。また豊富な地下水を利用した鮎の養殖は東日本一です。



観光業

氏家地区ではさくら市ミュージアムや瀧澤家住宅、さくらテラス等を中心に、喜連川地区では温泉資源を活用した観光事業を中心に、歴史を生かした特色ある観光活動が進められています。



製造業

東北自動車道矢板ICに近接する喜連川工業団地、浦須坂工業団地を中心に、自動車・機械・紙製品・金属製品・プラスチック加工・食品等の企業が立地しています。

Company

株式会社ホンダ・レーシング
HRC-Sakura

Hondaの四輪モータースポーツの開発を行う拠点です。ここで研究・開発されたマシンが世界で活躍しています。



エバラ食品工業株式会社 栃木工場

東日本における生産拠点。「黄金の味」や「浅漬の素」「すき焼のたれ」等を生産。近年ではポーション容器を使用した「プッチと鍋」「プッチうどん」等も生産しています。

ニッカウキスキー株式会社
栃木エイジングセラー

自然豊かな「弥五郎の森」にたたく巨大な施設で、北海道 余市蒸溜所と仙台 宮城峡蒸溜所で作られたウイスキーを再貯蔵しています。

名産品・さくらブランド

Specialty



レインボー
アイスクリーム



さくら
ブランド
SAKURA BRAND



さくら市が自信をもっておすすめする逸品ぞろい。市内の美味しいものや、特産物をもっと知ってもらいたいという思いから「さくらブランド」は誕生しました。

「江連商店」が商標登録したこの店だけのもの。30年前から製造・販売されているロングセラー商品です。



日本酒 仙翁

「株式会社せんぎん」は、江戸時代後期の1806（文化3）年に創業した蔵元です。仙翁は「せんぎん」と読み、仙人に使える鳥「鶴」を表します。



さくら和牛

豊かな自然環境の中、清らかな水と天然ハーブやビタミンEを多く含む飼料を用いた独自の育成方法によって生産される柔らかく旨味のある霜降り肉です。



焼き芋まるごと干し芋 甘極み

「農業生産法人株式会社和みの杜」が作る、自社生産の紅はるかを選りすぐり熟成させて焼いた芋の皮をむき、丸ごと干した贅沢な干し芋です。



喜連川温泉なす

温泉の水と熱を有効利用してハウス栽培を行う、皮がやわらかくみずみずしい越冬なすです。

鮎

豊かな水に恵まれた喜連川地区で育てられる良質な鮎は、自然と人の営みによる喜連川自慢のブランド。鮎の養殖を行う各生産者は、生きた鮎の出荷をはじめ、工夫を凝らした鮎製品の数々を生産しています。



あゆっ醬



あゆ寿司



鮎の甘露煮

氏家うどん

小麦の産地である氏家地区の良質な地場産小麦「イワイノダイチ」から作られたうどん。小麦を皮ごと挽いた地粉のほんのりと茶色がかかった色、適度な粘りとコシを持つ素朴な味わいです。



温泉パン

「温泉ばん株式会社」は、1941（昭和16）年に前身である「あさひ堂」の創業以来、78年にわたって地域内外に愛されてきたパン屋さん。看板商品の「温泉パン」は、1955（昭和30）年ごろ食パンの余り生地を使って考案しました。

Sightseeing

日本三大美肌の湯として知られる 喜連川温泉

1981（昭和56）年に湧出し、硫黄・塩分・鉄分を多く含む弱アルカリ泉で国内でも有数といわれる優良な泉質で、その泉質から佐賀県・嬉野温泉と島根県・斐乃上温泉とともに「日本三大美肌の湯」として三温泉でPR活動を行っています。



市営もとゆ温泉

内湯と岩風呂風の露天風呂を備えた浴室からは、山並みを望むことができます。朝7時からの営業。開放的な内風呂には、湯温の異なる高温層、低温層の二つがあります。



市営露天風呂

約50人が入れるほどの大きな岩風呂です。夏期を除き源泉かけ流しで営業しています。

道の駅つれがわ

2017（平成29）年4月「大正ロマン・大正モダン」をコンセプトに温泉施設や多彩な品揃の直売所、地元グルメを楽しめるフードコートなどがリニューアルオープン。様々なさくらブランド商品が販売されています。国道293号沿いに位置し、観光拠点としても便利なスポットです。



道の駅つれがわ温泉

山並みを望む開放的な雰囲気の内湯と露天風呂、サウナ、水風呂があります。お風呂あがりにはWi-Fiを完備した「りらくするーむ」で、漫画や雑誌を読みながらゆったり過ごすことができます。



道の駅つれがわ足湯

五角形の浴槽は、約20人が利用可能。床面からのジャグジーで足裏に程よい刺激が感じられます。温泉たまご器や手湯も備わった足湯施設です。

さくら

右上：氏家ゆうゆうパーク
左：荒川一葉桜
右下：クラ桜

市内には氏家ゆうゆうパークの桜づつみや再整備の進む早乙女の桜並木などのスポットが数多くあります。「ソメイヨシノ」のほか荒川左岸に約100本が連なる「イチヨウ（一葉）」「シダレザクラ」「ヤマザクラ」など種類によって開花時期は異なり、4月いっぱいまで楽しむことができます。また、桜の保全や新たな桜の魅力を発見するため市民と行政が協力して桜の郷づくりを進めています。



早乙女の桜並木の 伐採木を使用した プロモーショングッズ

2021（令和3）年からの県道拡幅工事に伴い伐採された「早乙女の桜並木」は、1925（大正14）年に地元青年団が植樹し「とちぎ景勝百選」としても親しまれてきました。さくら市では、歴史ある桜を後世へ受け継ぐ取り組みとして伐採された桜を活用し、多機能ボールペンやタンブラー、お箸を製作しました。



多機能ボールペン

お箸

タンブラー





1,560mにわたる
北関東最大級の桜づつみ
氏家ゆうゆうパーク

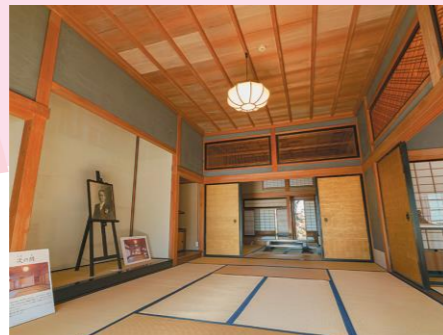
氏家宿から 喜連川の城下町までと 旧奥州街道のおもかげ

さくら市は古代の幹線道、国指定史跡の東山道が通り、交通の要衝地でした。中世に入ると、勝山城や大蔵ヶ崎城の城主たちが道を駆け抜けます。江戸時代には阿久津河岸や氏家宿、名門足利氏の流れを汲む喜連川足利家が治めた喜連川があり、江戸から奥州へと続く道沿いで、交通や文化交流により各場所が栄えました。



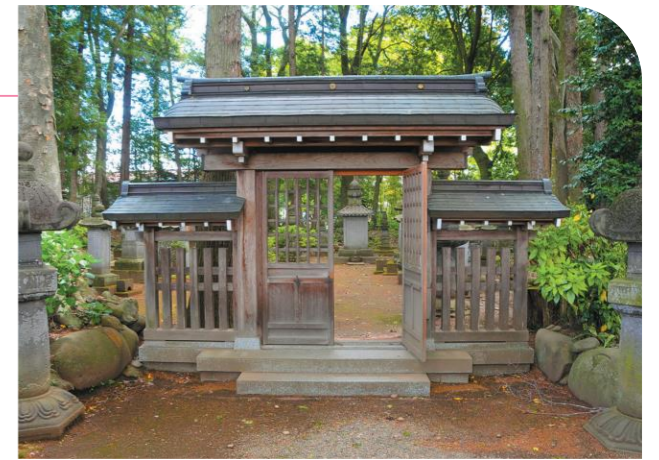
瀧澤家住宅

瀧澤家住宅は、櫻野地区の旧奥州街道沿いにあります。通りに面して伝統的な塀を巡らし、堂々たる長屋門を開くなど、今なお旧家の面影を留め、明治期の重厚な雰囲気や良さを残しています。鐵竹堂は1900（明治33）年に、長屋門も同時期に建築されたとされ、蔵座敷は1887（明治20）年に建築された建物に明治天皇の行幸を機に望楼が増築されたといわれており、1998（平成10）年に、建築遺産として歴史的な価値が認められ県指定文化財になりました。上質な材料と意匠が目立ち、近代和風建築の水準を知ることができる貴重な建物です。



龍光院の 足利家歴代墓所

喜連川足利家当主歴代の墓所です。1601（慶長6）年に足利尊氏の流れをくむ足利頼淳が埋葬されて以来、喜連川足利氏の菩提寺となっています。寺院の名前は、頼淳の法名「龍光院殿」が由来で、足利尊氏の像も祀っています。



御用堀

喜連川足利氏第10代熙氏の命で1844（弘化1）年、防火と農業用水を目的に整備されました。散策路の整備は一部ですが、宿場内に縦横に流れ、内川の西河原堰からの用水を御用堀、荒川の野辺山堰からを横町堀と呼びますが、現在は総称して御用堀と呼んでいます。



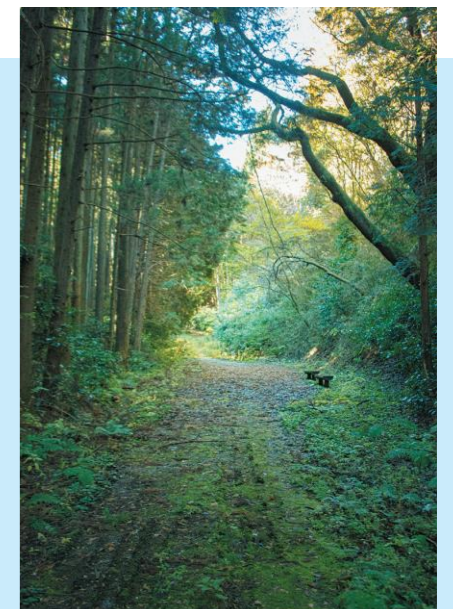
碧梧桐の句碑

「阪を下りて左右に藪あり栗おつる」河東碧梧桐は正岡子規の門下の秀才で俳句界で活躍した人です。この句は弥五郎坂を越え、喜連川を一望に荒川の清流を眼下にする大桜の下に一休みした時に詠まれました。左は弥五郎坂開削の碑で2つとも市指定文化財です。



光明寺の不動明王坐像

栃木県の指定文化財にもなっている青銅造不動明王坐像です。光明寺境内の高い所に安置され、身の丈4m近い姿のため迫力がああります。背中に彫られた文字から、江戸時代中期の1759（宝暦9）年に名工戸室卯兵衛によって鑄造されたことがわかる傑作です。



旧奥州街道

市内には南の上阿久津から、氏家、喜連川を経て、北の大田原市の佐久山方面まで江戸時代の奥州街道が通っていました。その中で、さくら市早乙女地区には、迂回路の開通によって、江戸時代の奥州街道の姿が残っている所があり、市指定史跡になっています。

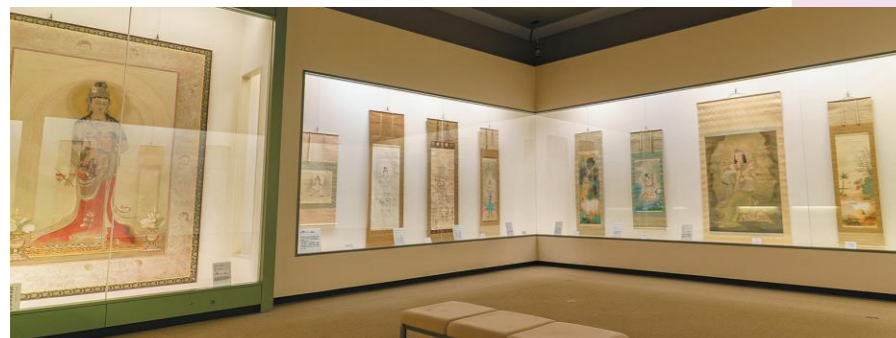
さくら市ミュージアム — 荒井寛方記念館 —

1993（平成5）年に「ミュージアム氏家」の館名で開館した博物館。2005（平成17）年に氏家町と喜連川町の合併により現在の館名となりました。2015（平成27）年には施設の増築と常設展示室のリニューアルを実施。毎年8回程度開催している企画展を中心として、郷土の歴史・文化と自然をふまえた様々な活動を展開し、情報を発信しています。



野口雨情コーナー

日本三大童謡詩人の一人、野口雨情の最初の妻ヒロは、さくら市喜連川出身です。雨情は、さくら市を何度も訪れ、多くの作品を残しています。その雨情の原稿や書、楽譜など貴重な資料を展示しています。



荒井寛方室

仏画家として日印文化交流の先駆者として、そして文化財保存に生涯を捧げ、明治・大正・昭和の時代に日本美術院を舞台に活躍した、さくら市出身の荒井寛方の画業を作品や資料を通じて紹介しています。

和い話し広場

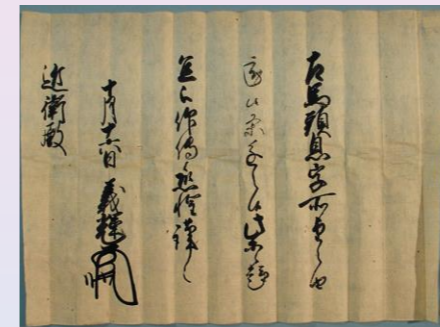
（旧下野中央銀行喜連川支店）

1929（昭和4）年、大森茂による同設計で壬生支店と同時に落成した建物で、国の登録有形文化財に登録されています。趣ある洋風建築を残して改修され市民活動やイベントなどの拠点として親しまれています。歴史と現代が調和した市民の大切な文化資産です。

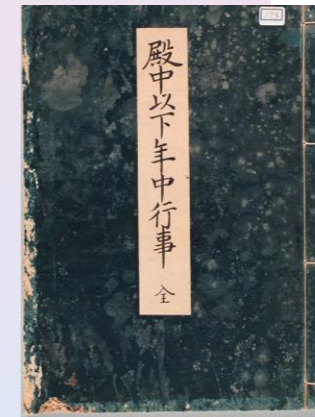


きつれがわけもんじょ 「喜連川家文書」が 栃木県指定有形文化財に 指定されました。

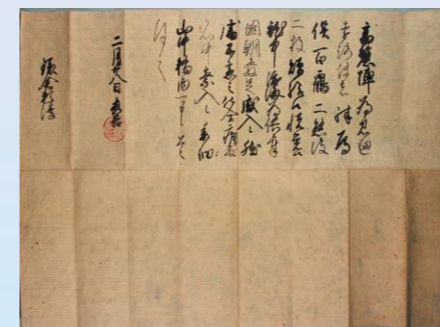
江戸時代に喜連川を治めていた喜連川足利氏は、室町幕府を開いた足利尊氏の子・基氏から始まる鎌倉公方の子孫です。室町時代以来この喜連川足利氏に代々伝わっていた系図や手紙などを喜連川足利氏8代恵氏が1781（天明元）年に整理・保存して「天明元年目録」にまとめました。この資料を総称して「喜連川家文書」と呼んでいます。明治時代に散逸しますが、15代淳氏氏の一部再収集して1982（昭和57）年に旧喜連川町へ寄贈、その後旧喜連川町・さくら市が収集し、現代まで守り伝えられてきました。鎌倉公方や喜連川足利氏の権力・権威・格式や文化を示す一級の資料であり、その歴史的価値が認められ2025（令和7）年に栃木県指定文化財となりました。



あしかがよしてるしよじょう
足利義輝書状
1555（天文24）年10月16日



てんちゅういかにんちゅうじょうじ
殿中以下年中行事
江戸時代



とよとみひでよししゅいんじょう
豊臣秀吉朱印状
1593（文禄2）年2月28日



氏家駅東西連絡通路

JR氏家駅の東口と西口を結ぶ連絡通路です。外壁デザインには文星芸術大学の学生が参加し、地域の自然や文化を表現した彩りが加えられています。



駅前展示館「さくらテラス」

JR氏家駅東口の情報発信拠点です。季節や時期ごとに様々なさくら市の魅力的な情報の展示や放映などを行っています。



蒲須坂駅郵便局

2025（令和7）年3月に開局した、JR蒲須坂駅併設の郵便局で、県内初となる駅の窓口業務の受託を行なっています。設置されているラッピングポストは、さくら市PR大使の窪井裕美さんによるデザインです。

さくら市の一年



喜連川公方 ひなまつり

📍喜連川地内

30か所以上のお飾り処に雛人形が展示される、2～3月の恒例行事です。喜連川公方の城下町を散策しながら、多彩な雛人形を楽しむことができます。



氏家雛めぐり

📍氏家地内

奥州街道が通り、かつて氏家宿として栄えたことから歴史ある雛人形が多く残る氏家地区。江戸時代から現代までの貴重な雛人形や手作りのつるし飾りなど、見ごたえのある展示をまち歩きを楽しみつつ巡ることができます。



桜まつり

📍氏家ゆうゆうパーク

桜の開花期間中に開催される桜まつり。期間中はキッチンカーやテントショップの出店、イベントが行われます。日中も圧巻の桜づつみですが、夕方からはライトアップされ、幻想的な夜桜が浮かび上がります。

ポピー畑

📍喜連川早乙女荒川河川敷



氏家商工まつり

📍氏家大通り

商工業の振興と市民交流を目的する祭りです。特産品販売やグルメ屋台、お神輿や阿波踊りなど多彩な催しが行われ、ステージでは音楽やダンスなどのパフォーマンスが披露されます。



鮎まつり

📍荒川水辺公園

道の駅きつれがわに隣接する水辺公園のじゃぶじゃぶ池で開催されます。小さなお子様から大人まで楽しめる鮎のつかみ取りなど清流の里の自然を感じることができるイベントです。

喜連川天王祭

📍喜連川中央商店街

長い歴史と伝統ある喜連川神社の天王祭。その名をかつては「あばれみこし」として近郷近在に知れ渡り、多くの若衆がもみ合う勇壮な神輿は他に類を見ない壮絶な祭りです。





うじいえ納涼彩

📍 さくらスクエア

氏家駅前に賑わいを作りだし幅広い世代間での市民交流や、地元を離れて行くかもしれない子どもたちの原風景づくりとして2005（平成17）年に始まった1日限定の小さな手作りのお祭りです。



きつねの嫁入り

📍 喜連川神社周辺

昔話や民話に登場する幻想的な嫁入りの情景を再現した行事です。夕暮れの灯りの中、白無垢姿の花嫁ときつねに扮した一行が町を練り歩く様子は、多くの観客を魅了します。



コスモス畑

📍 氏家ゆうゆうパーク



スカイランタン® ナイト

📍 氏家ゆうゆうパーク

昼間はキッチンカーやマルシェで食と買い物を楽しめ、日没後にはLEDスカイランタンを夜空に一齐に打ち上げ。幻想的な雰囲気包まれます。



きつれ川花火大会

📍 荒川水辺公園

喜連川の夜空を鮮やかに染める花火大会です。四方を山に囲まれる喜連川は、花火師が絶賛する音響効果で、大迫力の打ち上げ花火や仕掛け花火が観客を魅了します。



大公孫樹祭

📍 今宮神社

氏家の総鎮守として古くから地域の信仰を集めてきた今宮神社。その境内には「さくら市指定天然記念物」であり「とちぎの名木百選」にも選定されている樹齢700年の大公孫樹があります。黄葉の時期にはライトアップが行われています。

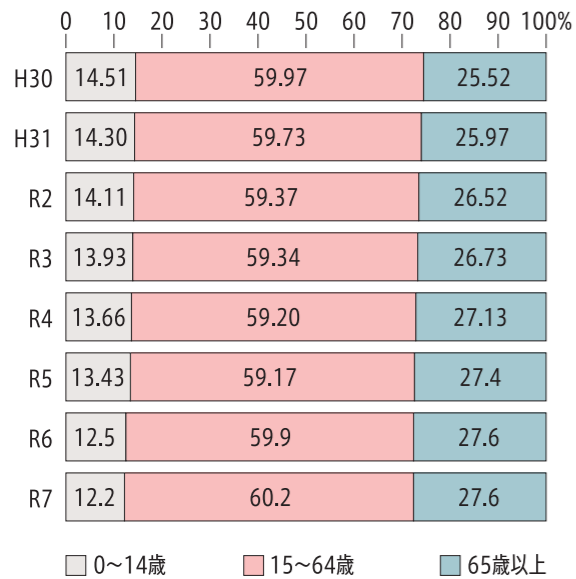


Data

人口構成

さくら市の人口は、2020年の国勢調査で44,513人を記録して以降、現在は約4万3千人台で緩やかな減少傾向にあります。年齢別構成では、15歳未満が約13%、15歳から64歳の生産年齢人口が約60%を占めています。高齢化率は、直近のデータで26.4%（2020年比）となっており、栃木県全体や全国平均と比較しても低い水準を維持しているのが特徴です。

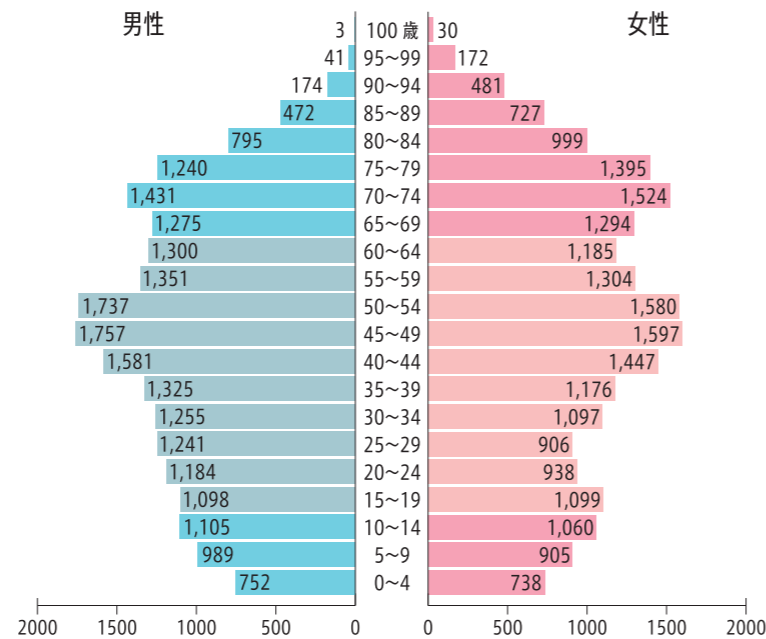
年齢3区分人口構成の推移



出典：栃木県 栃木県の人口

注) 四捨五入の関係で、構成比の合計が100%にならない場合があります。

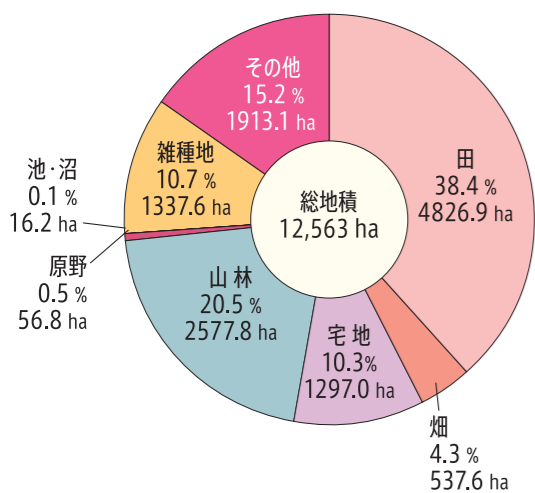
人口ピラミッド (2025年1月1日)



出典：総務省 令和7年1月1日 住民基本台帳年齢階級別人口 (市区町村別) (総計)

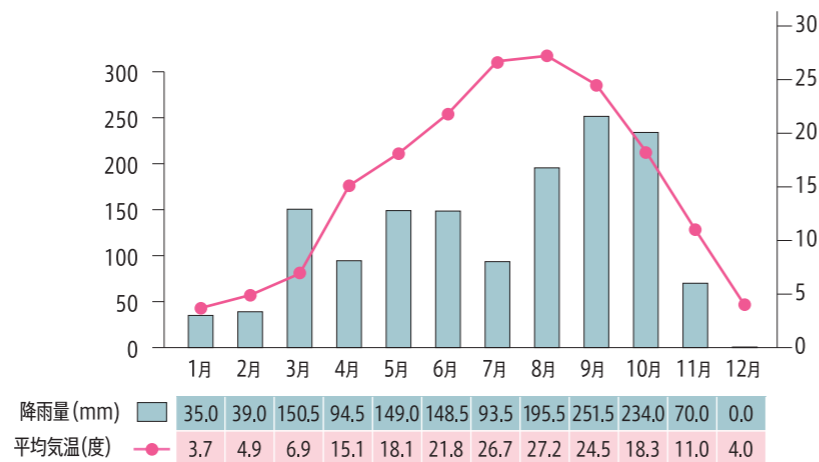
地目別土地面積 (令和7年)

さくら市は南北が17.8km・東西が15.6km。総面積は125.63km²で、県土の1.96%を占めます。市土のうち農地が42.7%、山林が20.5%です。



降雨量と平均気温 (令和6年)

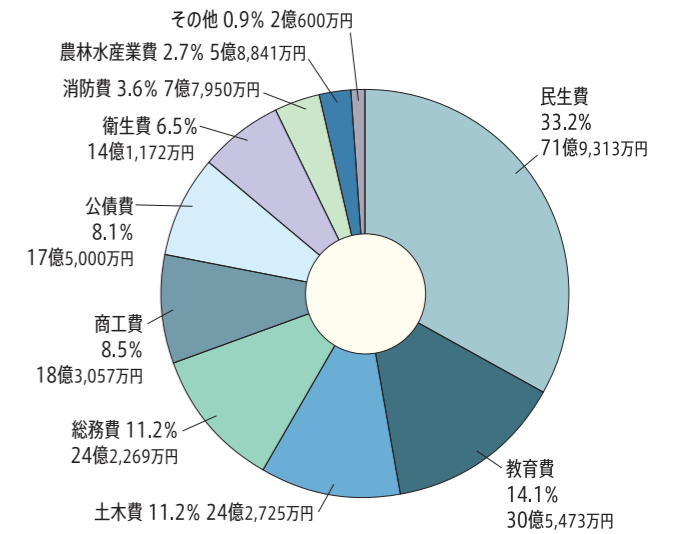
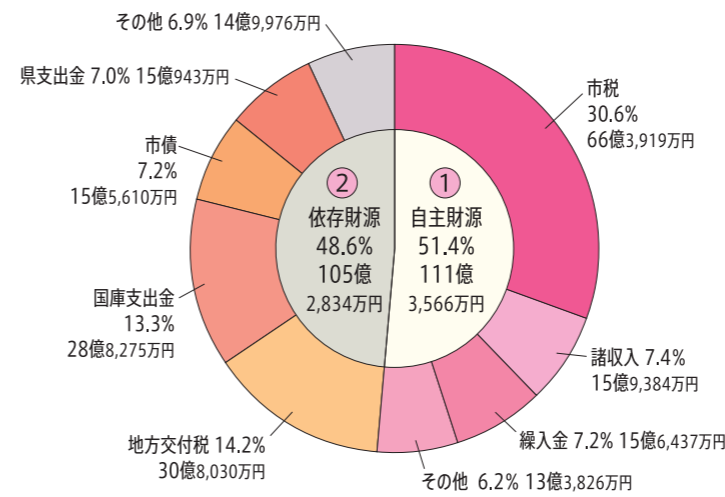
平野の多い氏家地区と喜連川丘陵など山林が多い喜連川地区では多少の違いがあります。氏家地区の方が気温が高く、降雪がある1~3月の降水量は喜連川地区の方が多い傾向です。



出典：塩谷広域行政組合消防本部 令和6年版消防年報

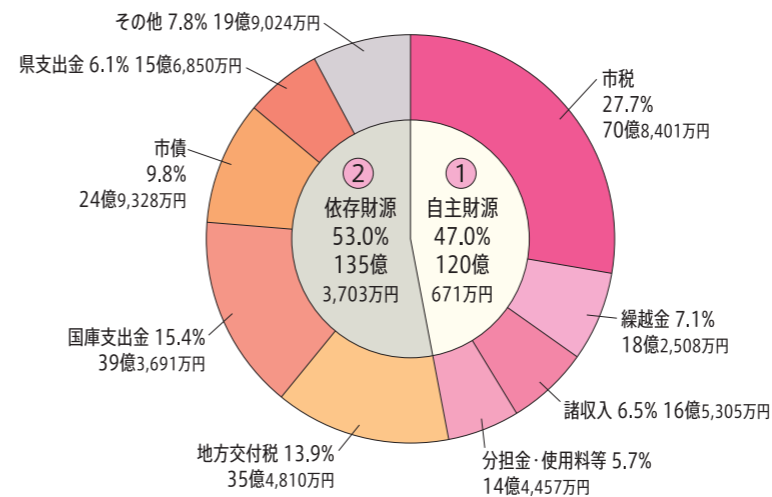
予算 (令和6年度)

歳入歳出 216億6,400万円



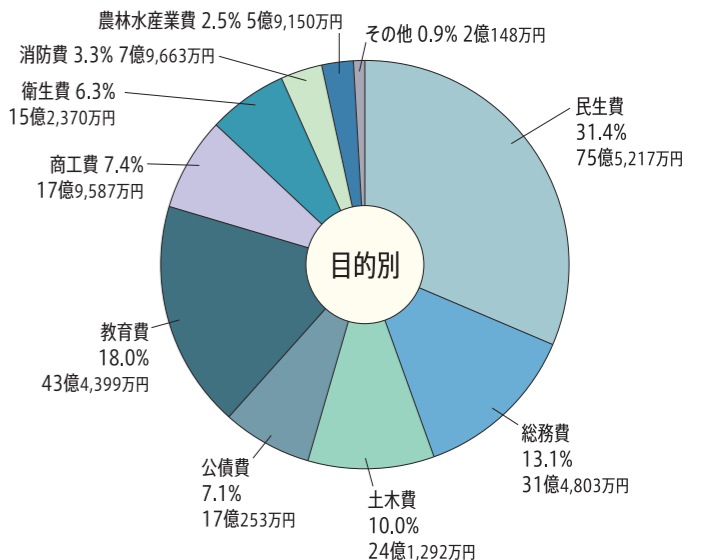
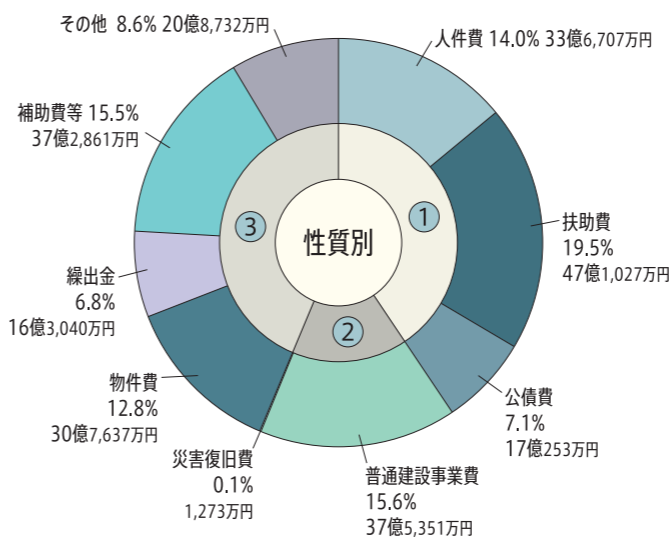
決算 (令和6年度)

歳入 255億4,373万円



令和6年度は、給食センター建設事業、小中学校屋内運動場等空調設備設置事業、住民税非課税世帯支援・定額減税補給付金事業、桜の郷づくり事業、市の堀用水改修事業などを実施しました。歳入は前年度比で13.5%増加し、財源として国庫支出金や県支出金、市債を活用した歳入は前年度比で10.9%増加しました。歳入・歳出差引額14億7,493万円のうち、翌年度に繰り越すべき財源2億3,310万円を差し引いた12億4,182万円(実質収支)は、令和7年度の歳入に編入します。

歳出 240億6,880万円



① 義務的経費 40.6% 97億7,987万円 ② 投資的経費 15.7% 37億6,624万円 ③ その他 43.7% 105億2,270万円

注) 端数処理により、計が合わない場合があります。

さくら市

T O C H I G I

市章



さくら市の「さ」をモチーフに、花びらのハートは市民がお互いに思いやる心を持ちつつ未来へ羽ばたくことを表現し、その心意気を高らかに謳いあげています。青は豊かな心と英知により、自然と調和した発展を創造することを表しています。

市民憲章

さくら市は、緑濃く水清らかで、歴史と文化のいきづくまちです。私たちは、この故郷（ふるさと）を守り、さらに発展させ、未来に伝えるため、ここに市民憲章を定めます。

- 一、自然を愛し、緑豊かなまちをつくります
- 一、互いに助け合い、思いやりの輪を広げます
- 一、歴史を大切にし、文化の薫るまちをつくります
- 一、スポーツを愛し、健やかな心と体を育みます
- 一、働くよろこびを持ち、活気あふれるまちをつくります

平成 18 年 7 月 1 日制定

姉妹都市



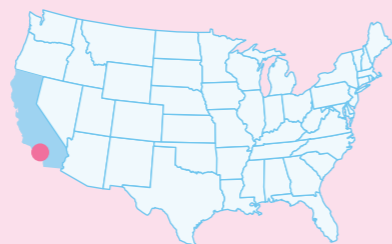
埼玉県加須市

関東平野の中央を流れる利根川中流域、埼玉県の東北部に位置し、群馬県、栃木県、茨城県と接しています。さくら市とは災害時の相互支援や市民交流を行っています。日本有数のこいのぼりの生産量を誇り、毎年5月に開催される「加須市民平和祭」での全長100メートルの「ジャンボこいのぼり」の空中遊泳は圧巻です。

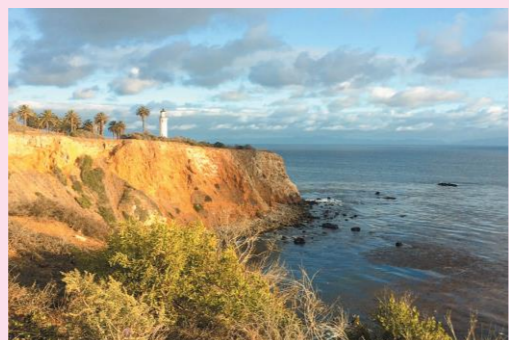
茨城県古河市

関東平野のほぼ中央、茨城県の西端に位置し、埼玉県、栃木県と接しています。さくら市喜連川地区とは足利尊氏に関する歴史的な繋がりが深い土地です。毎年8月に開催される「古河花火大会」は、関東で最大規模と言われています。

国際友好都市



アメリカ ランチョパロスベルデス市



さくら市とアメリカ合衆国・カリフォルニア州・ランチョパロスベルデス市は2020（令和2）年8月5日に調印式を行い、本市で初となる「国際友好都市」を締結しました。さくら市は2001（平成13）年度から、毎年市内の中学生を現地のミラステ中学校に派遣しています。この長年の派遣交流から、国際友好都市締結に至りました。

うた

さくら市の歌 ～願いこめた花～



桜と暮らす街、さくら市
(YouTube)

詞曲 河口京吾
歌 河口恭吾

遠き山々望めば
こころ晴れ渡ってゆく
勝山の城跡そめるは
願いこめた花
さくら さくら 美しい我がふるさと
さくら さくら 笑顔あふれるまち

清らかな川にも似て
すこやかな人育つよ
連城橋むすぶ未来は
高き志

さくら さくら 愛する我がふるさと
さくら さくら 希望あふれるまち

やさしい気持ちで手と手をつなぎ
大きな夢を育もう

さくら さくら 愛する我がふるさと
さくら さくら 歴史たたえるまち

さくら さくら 美しい我がふるさと
さくら さくら 笑顔あふれるまち

花と木

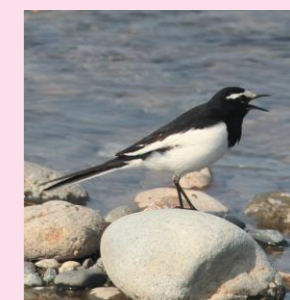
さくら



市内には、桜の見所が沢山あり、「さくら」は市名にもなっています。さらに、日本を代表する桜を大切にすることを願いを込めて、市の花と市の木を「さくら」としました。

鳥

せきれい



市内には、鬼怒川、荒川、内川、江川などが流れ、そこには清流にしか住まないといわれる、日本固有種の「セグロセキレイ」が身近に見られます。市にとって大変なじみの深い鳥であるとともに、いつまでも「清流」が保たれることに願いを込めて、市の鳥を「せきれい」としました。

WEB

ホームページ

<https://www.city.tochigi-sakura.lg.jp/>



観光ナビ

<https://sakura-navi.net/>



YouTube

公式チャンネル

Sakura-City



SNS

公式 インスタグラム

<https://www.instagram.com/sakurasogoseisaku/>



公式 X

https://x.com/sakura_city



公式 LINE

@Sakura_city



さくら市市勢要覧 2026（令和8）年3月発行
発行：栃木県さくら市 栃木県さくら市氏家2771番地 TEL.028-681-1113
デザイン：文星芸術大学 デザイン専攻

選ばれる街 さくら市

